ひょうご人権ジャーナル

ひろげよう こころのネットワーク

きずな

KIZUNA

2016
平成28年
9

特集テーマ

高齢者

自分らしく　いきいきと

2 「ギネス認定! 58年と256日で約8万9千レースを実況」
吉田 勝彦さん(園田・姫路競馬場実況アナウンサー)

3 「シニアは学び直しで社会変革の主役に」
関根 千佳さん(同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科 教授)

4 「地域で支える認知症 ～認知症カフェの取り組み～」
武地 一さん(NPO法人 オレンジコモンズ 理事長)

5 「介護者の支援について」
渡辺 道代さん(東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 准教授)

6 「元気シニアが『播州針』を次世代につなぐ」
株式会社土肥富(加東市)

7 「なぜホームレスになるのでしょうか」
佐野 章二さん(有限会社ビッグイシュー日本 代表取締役)

8 情報ぷらざ

兵庫県マスコット はばタン

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

高齢化が急速に進んでいる日本の社会では、高齢者が能力を発揮して活躍することが期待されています。一方、介護における虐待や孤立、高齢者を狙った犯罪など、人権に関わる多くの問題も指摘されています。

本号では、高齢者の尊厳が守られ、豊かな経験や知識が活かされる社会・環境づくりについて考えてみましょう。

ギネス認定! 58年と256日で約8万9千レースを実況

園田・姫路競馬場実況アナウンサー

吉田（よしだ） 勝彦（かつひこ）さん

"熱い"競馬実況で競馬ファンにおなじみの吉田アナウンサー。レーストラックアナウンサーとしてのキャリアの長さ「58年と256日」が、世界最長としてギネス世界記録に認定され、その記録は今も更新され続けています。

Q 実況アナウンサーを始めたきっかけは。

A もともとはラジオドラマの声優をめざしていました。1955（昭和30）年、18歳の時、声優養成所に張り出してあった実況アナウンサーのアルバイトに応募したことがきっかけです。

お手本となる先輩がいなかったので、本当に手さぐりでした。すべてが我流なんです。当時は、厩舎（きゅうしゃ）に通わせてもらって、馬の世話をしながら、馬の事や専門的な用語を勉強しました。「馬と騎手」が私の先生ですね。

Q 情熱的な実況の秘訣は。

A 「実況は掛け声」と思っています。馬や騎手が活（い）きる実況を心掛けています。

親父が、義理人情の世界を描いた芝居が好きで、子どもの頃よく一緒に見に行きました。親父は掛け声をかけるのが、うまくてね。「張りのある掛け声が絶妙のタイミングで飛ぶと、役者はさぞうれしいだろう」と子ども心に思ったものです。あのころの思いが生きているのかもしれませんね。

Q 半世紀以上のキャリアの中で、特に思い出に残っていることは。

A いわゆる「園田事件」※が特に印象に残っています。競馬場存続の危機でした。治安を理由に競馬場を廃止しようと集まった住民に対して、私は「競馬場は、そこで働く人たちの命の場でもある」と訴えかけました。「働いている人たちも園田の住人」と皆様に理解いただき、競馬場が再開されたのです。いろいろ考えることがあり、自分の人生に影響を与えた出来事でした。

※1974（昭和49）年園田競馬場において、競争の成立に関する審判をめぐって不満を訴えた観客を中心に一部が暴徒化。競馬開催の廃止が検討される事件となった。

Q 仕事を続けてこられた秘訣は。

A 実は、思うようなアナウンスができないために、やめようと悩んでいた時期がありました。親交があった歌手の北島三郎さんに相談すると、「何を言う！俺だって"足りないんだ"。だから、続けているんだ」と檄（げき）を飛ばされました。それからは、次こそは、次こそはと満足いく実況めざして、今日までできています。

Q 兵庫県の「元気高齢者」の代表としてメッセージを。

A 今まで元気に続けてこられて、皆様への感謝の気持ちしかないです。実況アナウンサーとして受け入れてくださったお客様、環境を整えてくださった関係者の皆様、そして何より産んでくれた両親に感謝です。皆様に満足いただける実況ができるように今後も励み続けます。

園田競馬場の解説室からダートコースを望む吉田さん。

プロフィール

1937（昭和12）年大阪府生まれ。1955（昭和30）年から競馬実況を担当し、2014（平成26）年にギネス世界記録に認定される。現在、動画配信サイト「そのだけいばレース展望」などに出演中。ダート・プロ代表。

シニアは学び直しで社会変革の主役に

同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科 教授
関根（せきね） 千佳（ちか）さん

この数年、京都でシニア向けの大学に参加しています。京都の寺社を廻ったり、職人の手仕事を学んだりしていますが、70代の同級生の向学心にはかないません。シニアがもっと学び、社会に関心を持ち、そのエネルギーを世の中を良くする方向に使えば、日本はもっと幸せになるのではないかと思います。

父は65歳から大学へ

福岡に住む父は、定年を迎えた65歳から大学へ通い始めました。「高齢者は、高齢とは何かをわかっとらん。これでは安心して歳をとれん！」それが理由でした。確かに社会保障の仕組みや家族介護の方法など、高齢者自身が知っておくべきことは多いのに、それを学ばずに歳をとるのは不安ですし、何よりもったいないことです。現在87歳の父は、今も元気に母の老老介護を担っています。

欧米の大学にはジェロントロジー（高齢学）という学問領域があり、常識の一部となっています。老化の概念、介護保険制度、高齢者の活躍を支える技術、死への準備などが含まれます。世界最高齢国家※1の日本でも、10代から100歳までのあらゆる年代に必要な学問だと思います。これを学び、「高齢社会検定」※2を受けることもできます。これまでは受験会場が東京大学駒場キャンパスだけでしたが、今年の秋から京都の同志社大学でも受験できるようになりました。公式テキストを読んで「高齢社会エキスパート」資格取得に挑戦してみませんか？

50歳を過ぎたら始めよう

諸外国の大学では、幅広い年齢層が様々なことを学んでいます。シニアの学びの支援に特化した財団もあります。時間とお金と向学心のあるシニア層を大学が受け入れることは、少子化に悩む日本の大学にとってもメリットが大きいはずです。

50歳を過ぎたら、夜間や週末に、大学で高齢学や起業の方法などを学ぶことが普通になればいいですね。そして定年後は、自分や家族のためだけでなく、世のため人のために、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスを起こしましょう。地域の課題を解決したり、世の中を良くしたりするためにシニアが活躍できるのです。その会社で、地域の若い人を雇用できるかもしれません。

高齢者は、守られるだけの存在ではありません。子や孫の世代を少しでも幸せにするために、残る時間や持てる経験・能力を活かすことは、権利であり義務でもあります。よく学び、よく遊び、そしてよく生きようではありませんか。

※1世界保健機関（WHO）「世界保健統計2016」
※2高齢者や高齢社会に関する正しい知識を身につけるために一般社団法人高齢社会検定協会が実施。

プロフィール

株式会社ユーディット会長兼シニアフェロー。内閣府、国土交通省など多くの省庁や自治体で委員を務める。『ユニバーサルデザインのちから』（生産性出版）、『スローなユビキタスライフ』（地湧社）、『誰でも社会へ』（岩波書店）、『スマートエイジング入門』（共著、NTT出版）など著書多数。

地域で支える認知症～認知症カフェの取り組み～

NPO法人 オレンジコモンズ
理事長
武地（たけち） 一（はじめ）さん

認知症カフェって何？

まだまだ聞き慣れない言葉だなと感じられる人も多いかと思います。認知症カフェというのをもう少し言葉を足して説明するとすれば、「認知症になっても安心して過ごせる居場所としてのカフェ」「認知症の人だけでなく、認知症の人の家族も気軽に相談に訪れることのできるカフェ」あるいは「認知症のことをもっと知るためのカフェ」となります。

みなさんの心の中にも、「認知症になったら怖い」「認知症になったら何もわからなくなる」「認知症の人とどう接すればいいのかわからない」などという気持ちがあるかもしれません。また、実際に病院で自分が、あるいは家族が認知症と診断されて、薬も処方されたけど、どうやって過ごせばいいのだろうという心配を抱えている人もいるかもしれません。そのような悩みや心配を、カフェという気楽な場で話をすることができればというニーズに応える形で運営されています。

認知症カフェのプログラム

「認知症カフェ」というのは行政用語的な呼び方ですので、実際にはオレンジカフェであるとか、その他の親しみやすい名前が付けられています。月に一回の開催や週一回の開催というところがほとんどです。街中の喫茶店を借りて開催しているところもあれば、公民館や民家を使って開催しているところもあります。もともとオランダで1997（平成9）年に、アルツハイマーカフェという形で開催されたのが発端とされています。その後、オランダで広がっているアルツハイマーカフェは月一回開催され、一回あたり2時間で、認知症についてのお話（30分）、音楽の生演奏など（30分）というようにプログラムが決まっています。日本で開催されているカフェでは、プログラムを決めず、自由に話ができるようにしているところもあります。

あなたの力を地域に

医療・介護の専門職の方が運営しているカフェも少なくありませんが、市民ボランティアが研修を受けて運営したり、スタッフとして参加したりすることも大事です。認知症サポーターの講座を受けてオレンジリング※をもらったけれど、地域のためにもっとできることがあればと思っている場合など、認知症カフェのスタッフとして参加してみてはいかがでしょうか。

※オレンジ色のブレスレットで認知症サポーターの証

NPO法人オレンジコモンズ
2014（平成26）年に、認知症カフェの運営・普及を目的として設立。京都市内で開催する認知症カフェ「オレンジカフェコモンズ」の運営ならびに「オレンジカフェ上京（かみぎょう）」の運営への参画と、認知症カフェ運営に関する研修事業などを行う。

プロフィール

藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科 教授。1986（昭和61）年京都大学医学部卒業。内科研修・内科医として勤務後、大阪、ドイツなどで神経・記憶などの研究に従事。1999（平成11）年、京都大学医学部附属病院に、もの忘れ外来を開設。京都大学医学部附属病院老年内科助教、講師、同神経内科講師を経て、2016（平成28）年4月より現職。日本老年医学会ならびに日本認知症学会の専門医・指導医。2012（平成24）年より認知症カフェの運営にも携わり、認知症カフェを運営するNPO法人オレンジコモンズの理事長も務める。近著に「認知症カフェハンドブック」がある。

兵庫県認知症カフェ　検索

消費者ホットライン「188（いやや！）」

購入した商品やサービスについて「困った」「危ない」、「おかしい」と思ったとき等、消費生活の事でお困りの際は、一人で悩まずに、消費者ホットライン「188」番におかけください。（お近くの県や市町の消費生活センターにつながります。）　県企画県民部消費生活課

○電話番号：188（局番なし）

※時間帯等によってはガイダンスにより電話番号及び受付時間が案内されます。
※消費生活センター接続後の電話料金は相談者のご負担となります。

介護者の支援について

東洋大学ライフデザイン学部
生活支援学科 准教授
渡辺（わたなべ） 道代（みちよ）さん

1 介護者問題の現状

先日、NHKで「介護殺人」※1についての番組が放映されました。NHKの全国の放送局の記者達が、それぞれの地域で起きた事件を取材したもので、昨年までの6年間に、傷害致死なども含めて少なくとも138件の介護殺人が発生していたことが報告されました。

番組によると、2010(平成22)年からの6年間に起きた「介護殺人」138件の中で、介護期間が判明した77件のうち、介護を始めて3年以内に事件を起こしていたケースが53%と半数を超えます。なかでも1年以内は26%と、実に4分の1に上っていました。同様に、介護サービスの利用状況が判明した67件の「介護殺人」のうち、75%、実に4分の3が、デイサービスなどの介護サービスを利用していたと報道されています。介護年数が短くて、介護サービスを利用しているようなケースでも、介護者の負担が過重になっている場合があることがうかがえます。

また、家族の介護の経験がある方へのアンケートでは、介護をしているときに自分自身の心身に不調があったかを尋ねたところ、回答者388人のうち「あった」と答えたのは全体の67%を占めました。さらに、介護をしている相手に対する感情を聞いたところ、「一緒に死にたい」、「手にかけてしまいたい」と思ったことが、「ある」、「ときどきある」と答えた人は合わせて24%を占め、4人に1人に上ったことも報道されました。

2 深刻化する介護状況にどのように対応するか

「介護殺人」のような深刻な事件は、介護負担が過重になった場合の最悪な状況を示しています。日本では介護者の生活や人権を保障する制度や法律、介護者を支援する法律については未だ整備されているとはいえません。政府は2020年代初頭までに、家族の介護を理由とした離職の防止等を図るべく「介護離職ゼロ」を推進していくこととしています。その中で、必要な介護サービスの確保と働く環境改善・家族支援を重点項目として挙げていますが、介護休業の取得者は3.2%、介護休暇の取得者は2.3%※2と低く実質的な支援となっていません。介護者を取り巻く状況は相変わらず厳しいですが、介護を担う人を支えるためにも介護を担う人々への適切な支援が急務となっています。

介護者をサポートする試みとして、ケアラー(介護者)カフェやオレンジカフェ(認知症カフェ)のような地域の中で介護者を支える試みが様々な地域で始まっています。介護者支援については今後の社会に影響を与える大きな課題として、私たち自身が考えていかなければなりません。

※1 NHKスペシャル「私は家族を殺した〜介護殺人〜当事者たちの告白」(平成28年7月放送)「NHK NEWS WEB」より引用
※2 厚生労働省（平成24年度）「仕事と介護の両立〜介護離職を防ぐために〜」

プロフィール

大学を卒業後、医療機関のソーシャルワーカーや専門学校の専任教員を経て、現職。主に介護者支援等を研究課題・ライフワークとしている。ここ数年は自身の父母・伯父・きょうだいの介護のため、多忙な日々を送っている。NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン副理事長ほかを務める。

元気シニアが「播州針」を次世代につなぐ

株式会社土肥富（どひとみ）
（加東市）

釣り針は加東市の地場産業です。釣針メーカーの「株式会社土肥富」は、創業125年を超える長寿企業として、その技術を守り継承しながら、全世界に製品を届けています。

技術を継承するために

幕末の頃、下久米村の庄屋であった小寺彦兵衛が土佐から釣針製造の技術を地元に持ち帰りました。釣針製造は農家の副業として定着し、いまでは兵庫県で全国シェアの約9割を占める産業に成長しています。

その製造工程は「尖頭（せんとう）」「焼入」など大きく七つ。それぞれの工程に独自の技術があり、それらが結集して商品が完成します。技術を習得して一人前になるためには、10年を要し、技術の伝承は会社の大きな課題となっています。

技術の伝承をスムーズに行うために重要な役割を果たしているのが、熟練した技を持つ高齢従業員です。「伝統の技術を伝える高齢従業員に長く活躍してもらいたい。」と総務部長の岸本康兒（こうじ）さんは話します。

同社では、昭和40年代、他社に先駆けて定年を65歳に引き上げる制度改正を実施。就労の意欲があり、会社が必要とする人材についてはさらに雇用枠を広げています。現在、65歳以上の従業員は、全体の約20パーセントにもなり、70歳を超えて働いている方もいます。

また、釣針製造という緻密（ちみつ）な作業をこなすためには、従業員が心身ともに健康であることが重要。そのため、健康管理には特に注意しています。たとえば、禁煙がまだ一般的でなかった時代から、社内禁煙を取り入れてきました。ほかには、社内で販売している飲料も体に良いと思われるものを選ぶなどのこだわりぶりです。

未来を見つめた取り組み

近年、環境の変化で魚量が少なくなっていることは同社にとっても大きな問題です。そこで、同社では魚のえさとなるプランクトンを増やすために、山に植林を行うなどの活動を行っています。また、「土肥富杯ファミリー釣り大会」を開催したり、会長が作詞したイメージソング「釣りガール」をCD化して無料配布したりと、釣りに関心を持ってもらうための取り組みにも力を入れています。

時代に合った製品、技術を開発しながら、世界に誇れる『播州針』を守る取り組みは続きます。

1892（明治25）年創業。社員数110人。約3000種類の針を製造し、海外を中心に出荷。代表取締役社長は土肥正芳さん。会長の土肥芳郎さんは、2012（平成24）年春に、釣針製造を中心にした長年の取り組みが評価され黄綬褒章を受章。

住　所　加東市新定382・3（本社工場）
TEL　0795（46）0001

社内には、家族的な雰囲気があると話す岸本さん。

兵庫県警察　悪質商法相談窓口　「ヤミ金融・悪質商法110番」

悪質商法の一部では、被害者に占める高齢者の割合が高く、悪質業者が高齢者を狙っている状況がうかがわれます。警察では、県民の皆さんから寄せられる苦情・相談等を通じ、悪質業者等の端緒情報を早期に入手し、被害の未然防止・拡大防止を図るため、県民の皆さんと警察を結ぶホットラインとして「ヤミ金融・悪質商法110番」を設置しています。お困りの時はご相談ください。

【相談事例】
- リフォーム工事業者の訪問を受け、高額かつ不要な契約を結ばされた。
- 「必ず儲かる」旨の投資勧誘パンフレットが自宅に届いたが、信用して良いのか。

○受付時間：24時間　○電話番号：078（371）9110
～みないい暮らしの110番～

なぜホームレスになるのでしょうか

「ビッグイシュー」をご存じでしょうか。ホームレスへの直接の救済ではなく、雑誌販売などの仕事を提供し、自立を応援することを目的に1991(平成3)年にロンドンで設立されました。佐野章二さんは、2003(平成15)年5月「有限会社ビッグイシュー日本」を設立し、同年9月ホームレス支援雑誌『ビッグイシュー日本版』を創刊。ホームレスの自立支援活動を続けています。

きずなトピック

有限会社ビッグイシュー日本
代表取締役
佐野(さの) 章二(しょうじ)さん

ホームレスに人権はあるのか？答えはイエスであり、ノーです。「ホームレス」を安定的な住居を持たない「状態」の人だと考えると、彼らにはもちろん人権があり、イエスです。しかし、「ホームレス」を男女、年齢などの「属性」のように考えてしまうと、彼らは人権を奪われ続ける存在で、ノーと言えます。

では、なぜ人はホームレスになるのでしょうか？　まず仕事(収入)、次に住居を失い、そして、助けを求められる身近な絆をなくす、という3つが揃ってホームレスになります。つまり、「一人ぼっち」になってホームレスになります。ホームレスとは、こうした状態であって、属性ではありません。にも関わらず、彼らの多くは人権を奪われ続け、社会から排除され孤立させられているのです。

他者とのつながり、食事や健康、仕事、社会サービス、楽しみなど、日常にあったものから排除され、孤立しているホームレスの人々。一人になって考え事をするなどの孤独の時間は人間にとって必要不可欠なものですが、孤立は孤独であることすら奪います。孤立によって、身も心も貧困にされ続け、なかには心を病んでしまう人もいます。

では、私たちはホームレスの人々とどのように関わればいいのでしょうか。私は、山で人とすれ違うと必ず「こんにちは！」と声をかけます。同じように、ホームレスの人を見かけたらあいさつしてほしいと思います。相手はきっと驚くでしょうが、彼らが社会とのつながりを感じる時間になると思います。

プロフィール

1941(昭和16)年大阪府生まれ。大学卒業後、都市計画プランナーなどの仕事を経て独立し、地域調査計画研究所を設立。その後、NPO法制定の基礎調査をはじめ、日本各地のNPO支援センターの立ち上げを支援。2000年代からは、ビジネスによる社会問題の解決を提案。2001(平成13)年NPO「シチズンワークス」を設立、『ビッグイシュー日本版』発行のアイディアを生む。2007(平成19)年ビッグイシュー基金を設立し、理事長就任。

映画紹介

「太陽のめざめ」

親の愛を知らず非行を繰り返す少年と、少年を助けるために奮闘する大人たちの姿を描いたカトリーヌ・ドヌーヴ主演作。すぐに「キレる」母親に育てられている息子のマロニーもまた、すぐにキレて暴力沙汰などの事件を起こし続けます。なのに、家庭裁判所の判事は愛の手を差し伸べ続け、チャンスを与え続けます。元不良少年の教育係まで世話します。

裏切られても裏切られても、決して見捨てず、救いの手を差し伸べ続けることができるのは、結局のところは大きすぎるぐらいの愛情と忍耐なのでしょうか。検事が主張する刑務所行きを退け、判事も教育係も渾身に世話し、心をくだき、決して投げ出しません。

どうしようもなく見えるマロニーですが、恋人ができて子どもが生まれます。その子どもを抱くことを拒否しながらも、判事の絶妙の距離を保った愛情が、マロニーだけではなく、映画を見た観客までを包んでいるかのような気分にさせられます。こうしたシステムを持つ、フランスの人権意識の高さも見どころです。

監督:エマニュエル・ベルコ
出演:カトリーヌ・ドヌーヴ
ロッド・パラド
ブニワ・マジメル
118分 2015年フランス映画。

●お問い合わせ
シネ・リーブル神戸
078(334)2126

ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2016in あこう を盛大に開催

8月20日(土)、赤穂市文化会館、赤穂市総合福祉会館で、「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2016 in あこう」を開催しました。

人権講演会では、「あなたは宝物！自分らしく生きよう！」と題して、落語家で僧侶の露(つゆ)の団姫(まるこ)さんにユーモアを交えながらご講演いただきました。ふれあいステージでは、地元団体による和太鼓・獅子舞・ハーモニカ演奏で大盛り上がり。他にも、障害者スポーツや車イス体験、子ども多文化共生イベントなどが開催され、人権について考える楽しい一日となりました。

オープニングには、はばタンらマスコットキャラクターも登場しました。

イベントガイド

その他のイベント情報は、当協会ホームページ「イベント情報」をご覧ください

稲美町 ほっとホットセミナー	日時 9月10日(土) 10:00～11:30 場所 いきがい創造センター 多目的室 ※JR山陽本線「土山」駅から神姫バス上新田行き「稲美町役場前」下車すぐ 講演「介護問題について」 講師:丸尾多重子さん(つどい場さくらちゃん)	問い合わせ 稲美町教育委員会 人権教育課 TEL 079(492)2550 FAX 079(492)6768
一般社団法人 ひょうご部落解放・人権研究所 第3回人権歴史マップ 連続セミナー	日時 9月10日(土) 14:00～15:30 場所 県立のじぎく会館 ※神戸市営地下鉄「県庁前」駅下車、北へ400m 講演「神戸の夜間中学校」 講師:草京子さん(元神戸市立中学校教員) 一般800円、会員・定期購読者・学生500円 ※できるだけ事前申込をお願いします。	問い合わせ 一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所 TEL 078(252)8280 FAX 078(252)8281
加西市 人権映画会	日時 9月17日(土) 1回目 14:00～16:00 2回目 18:00～20:00 場所 アスティアかさい3F 多目的ホール ※JR加古川線「粟生」駅で乗り換え、北条鉄道「北条町」駅下車すぐ 映画「ある精肉店のはなし」※2回目上映後、北出昭さん(出演者)ミニトーク	問い合わせ 加西市人権推進課 TEL 0790(42)8727 FAX 0790(43)1380
兵庫県立美術館 残しておきたい映画がある時代を見つめて30年	日時 10月2日(日) 10:30～ 場所 兵庫県立美術館 ※阪神「岩屋」駅(兵庫県立美術館前)下車徒歩約8分 映画上映「もういいかい～ハンセン病と三つの法律～」 参加費 500円(中学生以上)	問い合わせ 「もういいかい」映画製作委員会 TEL/FAX 078(333)8690

(テーマ：高齢者)

ありがたい　あついその手に　ささえられ

(神戸市　松平久美子さん)

人権に関する川柳を募集します！

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。
「きずな」に掲載された方には、オリジナルクリアファイルをプレゼント。

募集テーマ ネット社会、障害のある人、地域と防災

応募方法 はがき、FAX、メールで受け付け。郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募ください。応募は各テーマお1人1点とします。10月3日(月)締め切り。

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限ります。

応募先 (公財)兵庫県人権啓発協会(下記参照)

ハーフタイム half time

厚生労働省の発表(2012年)によると65歳以上の高齢者の約7人に1人、およそ462万人が認知症と推計されています。その方々の介護に携わる人の数がさらに多いことは容易に推測できます。他方、これから介護問題に直面する比較的若い世代も多いことでしょう。「認知症の捉え方は」「介護制度の利用の仕方は」など、初めて介護に携わるときには不安が多いものです。

昨年度、県と協会では、初期の認知症の人とその家族のかかわりを描いた人権啓発ビデオ「ここから歩き始める」を制作しました。

これから介護に取り組もうとしておられる方や研修などにご利用いただける内容になっています。

認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく暮らせる社会について一緒に考えていきたいと思います。

(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp
兵庫県人権啓発協会 検索

2016(平成28)年9月発行